

条例の制定に向けたアンケート調査結果の報告について

1 調査目的

社会全体で子どもや子育て家庭を支援する機運の醸成に資する条例とするため、当事者である子どもや若者をはじめ、広く市民の意見等を聞き、可能な限り反映できるように、アンケート調査を実施した。

2 調査対象

千葉市在住・在勤・在学の小学生以上の方

3 調査方法

- ・原則として年齢や子どもの養育状況等により調査表を区分したが、子どもの特性に応じ、異なる年齢区分の調査票を使用した。
- ・市立小・中学校等については、区ごとに抽出校を選定し、各学校において専用端末により調査を実施するとともに、その保護者に対して連絡システムを活用して回答を依頼したほか、抽出校以外と市立高校については、各学校を通じて児童・生徒と保護者へWebアンケートの周知を行った。
- ・市立養護学校、第二養護学校、高等特別支援学校については、各学校と協議の上、アンケート用紙により調査を実施した。
- ・その他については、本市のホームページやSNSでの広報のほか、関係団体等を通じ周知を行った。

4 調査期間

令和5年9月1日～11月8日

5 回答状況

調査票区分	回答件数
(1) 小学1～3年生	2,505
(2) 小学4～6年生	2,607
(3) 中学生～18歳程度	3,246
(4) 18歳程度までの子どもを養育していない19歳から29歳	70
(5) 18歳程度までの子どもを養育していない30歳以上	156
(6) 18歳程度までの子どもを養育している方	13,009
(7) 子ども・若者に関する施設職員	2,017
合計	23,610

※(7)は(3)～(6)の調査との重複回答を可とした。

6 調査結果の概要

(1) 小学1～3年生及び小学4～6年生

ア 家での生活で困っていること、学校生活で困っていること

3割前後が困っていることがあると回答しており、最も多かったのは、家では塾や習い事で忙しいことだったが、暴力や暴言等を受けていることが比較的上位に位置しているほか、手伝いを多く頼まれるという回答も一定数あった。

また、学校では、勉強が難しいことや宿題が多いこと、困ったときに誰に相談してよいかわからないという回答が多かったが、友人からからかわれたりすることや、教師が話をきいてくれなかったり、ひどく叱られたりするという回答も一定数あった。

家での生活で困っていること（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	1,706	68.2%
2	じゅくやならいごとがあつたりしていそがしい	471	18.8%
3	ひつようなもの・ほしいものがあるても、ないので、がまんしている	217	8.7%
4	おうちのひとからぶたれたり、いたいことをされたり、ひどくしかられたり	179	7.2%
5	おうちのひとがはなしをきいてくれない	144	5.8%
6	ごはんがたりなくておなかがへっている	138	5.5%
7	おてつだいをたくさんたのまれてじぶんのことができない	117	4.7%
8	しょうがいなどがあり、たすけがひつようなときに、たすけてもらえない	39	1.6%
9	そのた（ほかになにかあればぜひかいてください。）	29	1.2%

学校生活で困っていること（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	1,619	64.7%
2	べんきょうがむずかしくてわからない	373	14.9%
3	しゅくだいがおおくて、やるのがたいへんである	338	13.5%
4	こまったとき、だれにそうだんしたらいいかわからない	317	12.7%
5	ともだちによくからかわれたり、いたずらされたり、なかまはずれにされる	247	9.9%
6	せんせいにひどくしかられる	57	2.3%
7	せんせいがはなしをきいてくれない	43	1.7%
8	そのた（ほかになにかあればぜひかいてください。）	36	1.4%

家での生活で困っていること（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	1,811	69.7%
2	じゅくや習い事があつたりしていそがしい	495	19.0%
3	家族・いっしょに暮らしている人からよくしかられる	166	6.4%
4	必要なもの・ほしいものがあるても、ないので、がまんしている	136	5.2%
5	暴力をふるわれたり、暴言をはかれたりすることがある	122	4.7%
6	家族の仲が悪い	118	4.5%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	58	2.2%
8	お手伝いをたくさんたのまれて自分のことができない	55	2.1%
9	家族・いっしょに暮らしている人が話をきいてくれない	38	1.5%
10	ごはんが少なくおなかがへっている	27	1.0%
11	障がいなどがあり、助けが必要なときに、助けてもらえない	22	0.8%

学校生活で困っていること（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	1,853	71.3%
2	勉強が難しくわからない	291	11.2%
3	困ったときに、だれに相談したらいいかわからない	275	10.6%
4	宿題が多くて、やるのが大変である	236	9.1%
5	友だちによくからかわれたり、いたずらされたり、仲間はずれにされる	131	5.0%
6	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	80	3.1%
7	先生が話をきいてくれない	33	1.3%
8	先生にひどくしかられる	31	1.2%

※ 市立養護学校及び第二養護学校（再掲）

困っていることがあると回答したのは、家では3割弱で全体と比較すると低かったが、障害等があり助けが必要なときに助けてもらえないという回答も一定数あった。

また、学校では約2割で全体と比較すると低かったが、困ったときに誰に相談したらよいかわからないという回答も一定数あった。

家での生活で困っていること（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	28	75.7%
2	そのた（ほかになにかあればひかいてください。）	6	16.2%
3	しょうがいなどがあり、たすけがひつようなときに、たすけてもらえない	3	8.1%
4	ひつようなもの・ほしいものがあるも、ないので、がまんしている	1	2.7%
5	ごはんがたりなくておなかがへっている	0	0.0%
6	おてつだいをたくさんたのまれてじぶんのことができない	0	0.0%
7	じゅくやならいごとがあたりしていそがしい	0	0.0%
8	おうちのひとがはなしをきいてくれない	0	0.0%
9	おうちのひとからぶたれたり、いたいことをされたり、ひどくしかられたり	0	0.0%

学校生活で困っていること（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	31	83.8%
2	こまったとき、だれにそうだんしたらいいかわからない	3	8.1%
3	そのた（ほかになにかあればひかいてください。）	3	8.1%
4	せんせいにひどくしかられる	0	0.0%
5	べんきょうがむずかしくてわからない	0	0.0%
6	しゅくだいがおおくて、やるのがたいへんである	0	0.0%
7	ともだちによくからかわれたり、いたずらされたり、なかまはずれにされる	0	0.0%
8	せんせいがはなしをきいてくれない	0	0.0%

家での生活で困っていること（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	110	77.5%
2	その他（他に何かあればひかいてください。）	8	5.6%
3	家族の仲が悪い	7	4.9%
4	障がいなどがあり、助けが必要なときに、助けてもらえない	7	4.9%
5	家族・いっしょに暮らしている人からよくしかられる	6	4.2%
6	暴力をふるわれたり、暴言をはかれたりすることがある	5	3.5%
7	必要なもの・ほしいものがあるも、ないので、がまんしている	5	3.5%
8	ごはんが少なくおなかがへっている	3	2.1%
9	お手伝いをたくさんたのまれて自分のことができない	2	1.4%
10	じゅくや習い事があたりしていそがしい	2	1.4%
11	家族・いっしょに暮らしている人が話をきいてくれない	1	0.7%

学校生活で困っていること（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	111	78.7%
2	困ったときに、だれに相談したらいいかわからない	10	7.1%
3	その他（他に何かあればひかいてください。）	8	5.7%
4	勉強が難しくわからない	7	5.0%
5	先生にひどくしかられる	5	3.5%
6	宿題が多くて、やるのが大変である	4	2.8%
7	友だちによくからかわれたり、いたずらされたり、仲間はずれにされる	3	2.1%
8	先生が話をきいてくれない	2	1.4%

イ 自分の気持ちを伝えるときに困っていること、困っているときの相談先

3割以上が困っていることがあると回答しており、最も多かったのは自分の気持ちを上手に話せないことで、他人に伝えるのが恥ずかしいことや自信がないことなど、自分自身に関することが上位であったが、誰に伝えたらよいかわからないことや話をしても聞いてくれないという回答も一定数あった。

相談先については、多いものとしては父母や友人、教師等であったが、高学年になると、父母や教師の割合が低く、友人の割合が高くなっている。

また、困っていても誰にも相談しないという回答は1割以下だが一定数あった。

気持ちを伝えるときに困っていること（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	1,569	62.7%
2	じぶんのきもちをじょうずにはなせない	576	23.0%
3	じぶんのきもちをほかのひとにつたえることがはずかしい	464	18.6%
4	じぶんのきもちをだれにつたえたらよいかわからない	257	10.3%
5	じぶんのきもちをはなしてもきいてもらえない	119	4.8%
6	じぶんのきもちがわかり、かわりにつたえてくれたりすすめてくれたりするひとがない	97	3.9%
7	そのた（ほかになにかあればぜひ書いてください。）	9	0.4%

困っているときの相談先（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	おかあさん	1,606	64.8%
2	おとうさん	1,009	40.7%
3	ともだち	978	39.5%
4	がっこうのたんいんのせんせい	833	33.6%
5	がっこうのせんせい	498	20.1%
6	とくにこまっていない	436	17.6%
7	おとうと・いもうとやあに・あね	355	14.3%
8	おじいちゃんやおばあちゃん	290	11.7%
9	がっこうのほけんのせんせい	180	7.3%
10	そのほかのがっこうのせんせい	101	4.1%
11	スクールカウンセラー	76	3.1%
12	こまっいてもだれにもそうだんしない（→もんだいらもごかいとうください）	51	2.1%
13	そのた（ほかになにかあればぜひ書いてください。）	29	1.2%

気持ちを伝えるときに困っていること（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とくになし	1,717	66.0%
2	自分の気持ちをじょうずに話せない	563	21.7%
3	自分の気持ちを他の人に伝える自信がない	504	19.4%
4	自分の気持ちをだれに伝えたらよいかわからない	217	8.3%
5	自分の気持ちがわかり、かわりに伝えてくれたり助けてくれたりする人がいない	80	3.1%
6	自分の気持ちを話しても聞いてもらえない	56	2.2%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	24	0.9%

困っているときの相談先（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	おかあさん	1,518	58.3%
2	友だち	1,182	45.4%
3	おとうさん	850	32.6%
4	学校の担任の先生	563	21.6%
5	特に困っていない	490	18.8%
6	学校の先生	438	16.8%
7	兄弟姉妹	428	16.4%
8	おじいちゃんやおばあちゃん	237	9.1%
9	困っいてもだれにも相談しない（→問5もご回答ください）	205	7.9%
10	学校の保健室の先生	95	3.6%
11	スクールカウンセラー	82	3.1%
12	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	49	1.9%
13	その他の学校の先生	39	1.5%

※ 市立養護学校及び第二養護学校（再掲）

困っていることがあるという回答の割合は、全体と比較するとかなり高くなっており、自分の気持ちを上手に話せないことが突出して多かった。

相談先については、全体と同様に父母や教師という回答が多かったが、友人については全体と比較すると少ない傾向がある。

また、困っていても誰にも相談しないと回答したのは1割以上で、全体と比較するとやや高くなっている。

気持ちを伝えるときに困っていること（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	じぶんのきもちをじょうずにはなせない	32	82.1%
2	とくになし	6	15.4%
3	じぶんのきもちをほかのひとにつたえることがはずかしい	5	12.8%
4	じぶんのきもちをだれにつたえたらよいかわからない	4	10.3%
5	そのた（ほかになにかあればひかいてください。）	3	7.7%
6	じぶんのきもちがわかり、かわりにつたえてくれたりすてくれたりするひとがない	2	5.1%
7	じぶんのきもちをはなしてもきいてもらえない	1	2.6%

困っているときの相談先（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	おかあさん	25	69.4%
2	おとうさん	15	41.7%
3	がっこうのせんせい	11	30.6%
4	がっこうのたんにんのせんせい	11	30.6%
5	おじいちゃんやおばあちゃん	6	16.7%
6	そのた（ほかになにかあればひかいてください。）	6	16.7%
7	とくにこまっていない	5	13.9%
8	おとうと・いもうとやあに・あね	4	11.1%
9	こまっいてもだれにもそうだんしない（→もんだい5もごかいとうくださ	4	11.1%
10	ともだち	1	2.8%
11	そのほかのがっこうのせんせい	1	2.8%
12	スクールカウンセラー	0	0.0%
13	がっこうのほけんのせんせい	0	0.0%

気持ちを伝えるときに困っていること（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分の気持ちをじょうずに話せない	78	55.3%
2	特になし	44	31.2%
3	自分の気持ちを他の人に伝える自信がない	29	20.6%
4	自分の気持ちをだれに伝えたらよいかわからない	15	10.6%
5	自分の気持ちがわかり、かわりに伝えてくれたり助けてくれたりする人がいない	11	7.8%
6	その他（他に何かあればひかいてください。）	9	6.4%
7	自分の気持ちを話しても聞いてもらえない	3	2.1%

困っているときの相談先（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	おかあさん	82	56.6%
2	学校の先生	57	39.3%
3	おとうさん	53	36.6%
4	学校の担任の先生	52	35.9%
5	兄弟姉妹	29	20.0%
6	特に困っていない	24	16.6%
7	友だち	22	15.2%
8	おじいちゃんやおばあちゃん	18	12.4%
8	困っいてもだれにも相談しない（→問5もご回答ください）	18	12.4%
10	学校の保健室の先生	11	7.6%
11	その他（他に何かあればひかいてください。）	11	7.6%
12	その他の学校の先生	8	5.5%
13	スクールカウンセラー	6	4.1%

ウ 困っていても誰にも相談しない理由、知っている相談先

相談しない理由としては、低学年では自分で解決したいという回答が4割以上で最も多く、自分の気持ちを話すことが恥ずかしい、相手に悪いから、相談しても無駄だと思うなどの回答も多かった。

また、高学年では、上位4つの項目は低学年と同じであったが、相談しても無駄だと思うという回答が4割以上で最も多かった。

なお、知っている相談先について高学年にのみ質問したところ、約7割がスクールカウンセラー、4割以上が児童相談所と回答したほか、6割以上が複数の相談先を回答している。

誰にも相談しない理由（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	じぶんでかいけつをしたいから	20	41.7%
2	じぶんのきもちをはなすことがはずかしいから	15	31.3%
3	あいてにわるいから	12	25.0%
4	そうだんしてもむだだとおもうから	11	22.9%
5	しょうがいなどによって、じぶんではなしをすることができないから	4	8.3%
6	はなしをきいてくれるひとがいないから	3	6.3%
7	そうだんするじかんがないから	3	6.3%
8	まえにそうだんをしたことがあるが、かいけつしなかつたから	2	4.2%
9	そのた（ほかになにかあればぜひ書いてください。）	1	2.1%

誰にも相談しない理由（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	相談してもむだだと思うから	82	45.8%
2	自分の気持ちを話すことが恥ずかしいから	63	35.2%
3	相手に悪いから	59	33.0%
4	自分で解決をしたいから	54	30.2%
5	話を聞いてくれる人がいないから	22	12.3%
6	前に相談をしたことがあるが、解決しなかつたから	22	12.3%
7	相談する時間がないから	21	11.7%
8	障がい等によって、自分で話をすることができないから	5	2.8%
9	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	4	2.2%

知っている相談先（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	スクールカウンセラー	1,788	68.6%
2	児童相談所	1,099	42.2%
3	千葉いのちの電話	957	36.7%
4	子どもの人権110番	887	34.0%
5	千葉市教育相談ダイヤル24（24時間相談ダイヤル）	611	23.4%
6	青少年サポートセンター	560	21.5%
7	こころの健康センター	444	17.0%
8	千葉市養護教育センター	439	16.8%
9	よりそいホットライン	364	14.0%
10	チャイルドライン	326	12.5%
11	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	190	7.3%
12	子どもと親のサポートセンター	147	5.6%
13	ライトポート（千葉市教育センター）	126	4.8%
14	Link（子ども・若者総合相談センター）	125	4.8%
15	どこでもこどもカフェのおとな	93	3.6%
16	どれも知らない	75	2.9%

※ 市立養護学校及び第二養護学校（再掲）

相談しない理由としては、障害等によって自分で話をする事ができないからという回答が最も多く、知っている相談先については、全体と同様に児童相談所やスクールカウンセラーと回答する割合が高く、7割以上が複数の相談先を回答したが、どれも知らないという回答は3割以上で全体と比較するとかなり高かった。

誰にも相談しない理由（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	しょうがいなどによって、じぶんではなしをすることができないから	4	6.7%
2	じぶんのきもちをはなすことがはずかしいから	1	1.7%
3	じぶんでかいけつをしたいから	0	0.0%
4	はなしをきいてくれるひとがないから	0	0.0%
5	まえにそうだんをしたことがあるが、かいけつしなかったから	0	0.0%
6	そうだんするじかんがないから	0	0.0%
7	そうだんしてもむだだとおもうから	0	0.0%
8	あいてにわるいから	0	0.0%
9	そのた（ほかになにかあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

誰にも相談しない理由（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	障がい等によって、自分で話をする事ができないから	12	70.6%
2	相談してもむだだと思うから	4	23.5%
3	前に相談をしたことがあるが、解決しなかったから	3	17.6%
4	自分で解決をしたいから	1	5.9%
5	話を聞いてくれる人がいないから	1	5.9%
6	自分の気持ちを話すことが恥ずかしいから	1	5.9%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	1	5.9%
8	相談する時間がないから	0	0.0%
8	相手に悪いから	0	0.0%

知っている相談先（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	児童相談所	70	47.3%
2	スクールカウンセラー	60	40.5%
3	どれも知らない	55	37.2%
4	千葉市養護教育センター	40	27.0%
5	千葉いのちの電話	19	12.8%
6	子どもの人権110番	13	8.8%
7	青少年サポートセンター	13	8.8%
8	千葉市教育相談ダイヤル24（24時間相談ダイヤル）	11	7.4%
9	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	10	6.8%
10	こころの健康センター	9	6.1%
11	ライトポート（千葉市教育センター）	8	5.4%
12	子どもと親のサポートセンター	7	4.7%
13	Link（子ども・若者総合相談センター）	6	4.1%
14	よりそいホットライン	3	2.0%
15	チャイルドライン	2	1.4%
16	どこでもこどもカフェのおとな	1	0.7%

エ クラスや学校のことを決めるときに意見を伝えること

いずれも1割以上が自分の考えを言いたくないと回答しており、理由としては、自分の考えを話す自信がないことが最も多く、低学年では5割以上、高学年では約8割だった。

また、まちづくり等に関してこどもが意見を伝えることについて高学年にのみ質問したところ、こども自身に関わることについては5割以上、こども自身に関わることでなくても3割以上が意見を伝える必要があると回答しているが、こどもだから、あるいは伝えても変わりはないからとの理由で伝えなくてもよいという回答が1割以上あった。

クラス等のことで考えを伝えること（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	じぶんのかんがえをいいたいときと 言いたくないとおもうときがある	1,441	57.6%
2	いつもじぶんのかんがえをいいたいと おもう	705	28.2%
3	じぶんのかんがえをいいたくない（→ もんだい7もごかいとうください）	316	12.6%
4	そのた（ほかになにかあればぜひか いてください。）	38	1.5%

伝えたくない理由（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	じぶんのかんがえをはなすじしんが ないから	133	52.4%
2	じぶんのかんがえがまとまらない から	79	31.1%
3	じぶんのかんがえをはなしてもその おりにならないから	47	18.5%
4	じぶんのかんがえをはなすとへんな めで見られるから	32	12.6%
5	しょうがいなどによって、じぶん ではなしをすることができない から	24	9.4%
6	そのた（ほかになにかあればぜひ 書いてください。）	18	7.1%

クラス等のことで考えを伝えること（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分の考えを言いたいときと言 いたくないと思うときがある	1,511	58.4%
2	いつも自分の考えを言いたいと思 う	624	24.1%
3	自分の考えを言いたくない（→問8 もご回答ください）	327	12.6%
4	その他（他に何かあればぜひ書い てください。）	127	4.9%

伝えたくない理由（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分の考えを話す自信がない から	258	78.9%
2	自分の考えがまとまらない から	91	27.8%
3	自分の考えを話してもその おりにならないから	55	16.8%
4	自分の考えを話すすと変な目 で見られるから	29	8.9%
5	その他（他に何かあればぜひ書 いてください。）	28	9.1%
6	障がい等によって、自分で話 をすることができないから	3	0.9%

まちづくりのことでこどもが意見を伝えること（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	基本的には大人が決めることでは あるが、こども自身に関わる ことは意見を伝えたほうがよい	1,356	52.8%
2	こども自身に関わることでなく ても、積極的に意見を伝える 必要がある	812	31.6%
3	こどもだから積極的に意見を 伝えなくてもよい	179	7.0%
4	積極的に意見を伝えても、変 わりはないから、伝えなく てもよい	158	6.2%
5	その他（他に何かあればぜひ書 いてください。）	63	2.5%

※ 市立養護学校及び第二養護学校（再掲）

自分の考えを言いたくないという回答は、全体と同様に1割以上あるが、理由としては、障害等によって自分で話をする事ができないからという回答が最も多かった。

また、まちづくり等に関して子どもが意見を伝えることについては、全体と比較すると否定的な回答が多く、意見を伝えても変わりほしくないから伝えなくてもよいという回答の割合は、全体の2倍以上となっている。

クラス等のことで考えを伝えること（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	そのた（ほかになにかあればひかいてください。）	13	37.1%
2	じぶんのかんがえをいいたいときといたくないとおもうときがある	11	31.4%
3	いつもじぶんのかんがえをいいたいとおもう	6	17.1%
4	じぶんのかんがえをいいたくない（→もんだい7もごかいとうください）	5	14.3%

伝えたくない理由（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	しょうがいなどによって、じぶんではなしをすることができないから	5	100.0%
2	じぶんのかんがえがまとまらないから	1	20.0%
3	じぶんのかんがえをはなすじしんがないから	1	20.0%
4	じぶんのかんがえをはなしてもそのとおりにならないから	0	0.0%
5	じぶんのかんがえをはなすとへんなめでみられるから	0	0.0%
6	そのた（ほかになにかあればひかいてください。）	0	0.0%

クラス等のことで考えを伝えること（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分の考えを言いたいときと言いたくないと思うときがある	49	42.2%
2	いつも自分の考えを言いたいと思う	44	37.9%
3	自分の考えを言いたくない（→問8もご回答ください）	12	10.3%
4	その他（他に何かあればひ書いてください。）	11	9.5%

伝えたくない理由（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	障がい等によって、自分で話をする事ができないから	7	58.3%
2	自分の考えを話してもそのとおりにならないから	3	25.0%
3	自分の考えがまとまらないから	1	8.3%
4	自分の考えを話す自信がないから	1	8.3%
5	自分の考えを話すとき変な目でみられるから	1	8.3%
6	その他（他に何かあればひ書いてください。）	0	0.0%

まちづくりのことで子どもが意見を伝えること（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	基本的には大人が決めることではあるが、子ども自身に関わることは意見を伝えたほうがよい	39	36.1%
2	子ども自身に関わることでなくても、積極的に意見を伝える必要がある	33	30.6%
3	積極的に意見を伝えても、変わりほしくないから、伝えなくてもよい	16	14.8%
4	その他（他に何かあればひ書いてください。）	13	12.0%
5	子どもだから積極的に意見を伝えなくてもよい	7	6.5%

オ 住んでいる地域のこと、理想とする千葉市の将来像

低学年では7割以上、高学年では6割以上がこの地域が好きであるという回答だったが、大人はこどもの話をよく聞いてくれるという回答は、低学年では約4割、高学年では約3割だった。

また、理想とする千葉市の将来像については、いずれも怖いことや不安なことが少なく安心できるまちが7割以上で最も多く、次いでこどもが自由に過ごすことのできる遊び場や居場所があるまちが6割以上であったが、こどもの意見をよく聞いてまちづくりに取り入れるまちについては4割程度で下位に位置している。

住んでいる地域のこと（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	このちいきが、すきだ	1,814	72.7%
2	ちいきのおとなが、あいさつをしてくれる	1,230	49.3%
3	このちいきは、あんぜんだ	1,229	49.3%
4	しょうらいもこのちいきにすみたい	1,223	49.0%
5	おとなは、こどものはなしをよくきいてくれる	996	39.9%
6	このちいきのいちいんだとかんじる	704	28.2%

理想とする千葉市の将来像（小学1～3年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	こわいことやふあんなことがすくなくあんしんできるまち	1,977	79.0%
2	こどもがじゆうに過ごすことのできるあそびばやいばしょがあるまち	1,568	62.7%
3	おかねがなくてせいかつにこまることのないまち	1,375	55.0%
4	こまっているときやなやんでいるときにそうだんにのってくれるひとがいる	1,371	54.8%
5	おとなになったときじぶんもかつやくすることができるまち	1,344	53.7%
6	じぶんのやりたいことをてつだってくれるひとがいるまち	1,210	48.4%
7	せいべつ、ねんれい、うまれたくにやしょうがいなど、いろいろなちがいのあるひとみんながかつやくするまち	1,126	45.0%
8	こどものいけんをよくきいて「まちづくり」にとりいれるまち	1,085	43.4%
9	そのた（ほかになにかあればぜひかいてください。）	59	2.4%

住んでいる地域のこと（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	この地域が、すきだ	1,723	66.9%
2	地域の大人があいさつをしてくれる	1,151	44.7%
3	この地域は、安全だ	1,124	43.7%
4	将来もこの地域に住みたい	830	32.2%
5	この地域の一員だと感じる	782	30.4%
6	おとなは、こどもの話をよくきいてくれる	644	25.0%

理想とする千葉市の将来像（小学4～6年生）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	怖いことや不安なことが少なく安心できるまち	1,985	76.9%
2	こどもが自由に過ごすことのできる遊び場や居場所があるまち	1,686	65.3%
3	性別、年れい、生まれた国や障がいなど、いろいろなちがいのある人みんなが活やくするまち	1,377	53.4%
4	お金がなくて生活に困ることがないまち	1,313	50.9%
5	困っているときや悩んでいるときに相談にのってくれる人がいるまち	1,253	48.6%
6	大人になったときに自分も活やくすることができるまち	1,120	43.4%
7	こどもの意見をよく聞いて「まちづくり」にとりいれるまち	1,071	41.5%
8	自分のやりたいことを手伝ってくれる人がいるまち	1,008	39.1%
9	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	89	3.4%

※ 市立養護学校及び第二養護学校（再掲）

全体的に回答の割合が低く、中でも大人はこどもの話をよく聞いてくれるという回答は1割に満たなかった。

また、理想とする千葉市の将来像については、全体と同様に怖いことや不安なことが少なく安心できるまちが7割以上で最も多く、性別や年齢など様々な違いのある人みんなが活躍するまちは全体よりも回答割合が高かった。

住んでいる地域のこと（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	このちいきが、すきだ	16	57.1%
2	このちいきは、あんぜんだ	9	32.1%
3	しょうらいもこのちいきにすみたい	8	28.6%
4	ちいきのおとなが、あいさつをしてくれる	6	21.4%
5	このちいきのいちいんだとかんじる	5	17.9%
6	おとなは、こどもの話をよく聞いてくれる	1	3.6%

理想とする千葉市の将来像（第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	こわいことやふあんなことがすくなくあんなしんできるまち	26	76.5%
2	せいべつ、ねんれい、うまれたくにやしやうがいなど、いろいろながいのあるひとみんながかつやくするまち	19	55.9%
3	こどもがじゆうにすごすことのできるあそびばやいばしょがあるまち	16	47.1%
4	こまっているときやなやんでいるときにそうだんにのってくれるひとがいるまち	16	47.1%
5	じぶんのやりたいことをてつだってくれるひとがいるまち	15	44.1%
6	おとなになったときじぶんもかつやくすることができるまち	14	41.2%
7	おかねがなくてせいかつにこまることがないまち	8	23.5%
8	こどものいけんをよくきいて「まちづくり」にとりいれるまち	8	23.5%
9	そのた（ほかになにかあればぜひ書いてください。）	3	8.8%

住んでいる地域のこと（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	この地域が、すきだ	69	60.0%
2	この地域は、安全だ	36	31.3%
3	地域の大人があいさつをしてくれる	31	27.0%
4	将来もこの地域に住みたい	24	20.9%
5	この地域の一員だと感じる	18	15.7%
6	おとなは、こどもの話をよく聞いてくれる	8	7.0%

理想とする千葉市の将来像（養護・第二養護学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	怖いことや不安なことが少なく安心できるまち	89	70.6%
2	性別、年れい、生まれた国や障がいなど、いろいろながいのある人みんなが活やくするまち	75	59.5%
3	お金がなくて生活に困ることがないまち	61	48.4%
4	こどもが自由にすごすことのできる遊び場や居場所があるまち	52	41.3%
5	困っているときや悩んでいるときに相談にのってくれる人がいるまち	45	35.7%
6	大人になったときに自分も活やくすることができるまち	43	34.1%
7	自分のやりたいことを手伝ってくれる人がいるまち	41	32.5%
8	こどもの意見をよく聞いて「まちづくり※」にとりいれるまち	38	30.2%
9	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	8	6.3%

(2) 中学生～18歳程度

ア 家での生活で困っていること、家の外での生活で困っていること

家では約3割が困っていることがあると回答しており、最も多かったのは、塾や習い事が忙しいことだったが、暴力や暴言等を受けているという回答も一定数あった。

また、家の外では約4割が困っていることがあると回答しており、勉強や仕事がうまくいかない・興味がないことが多く、自分の存在が認められておらず価値がないように感じるという回答も上位に位置している。

家での生活で困っていること（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	2,373	73.2%
2	塾や習い事が忙しい	404	12.5%
3	家族からよく叱られる	257	7.9%
4	おこづかいや生活費が不十分	199	6.1%
5	家族の仲が悪い	158	4.9%
6	必要なもの・ほしいものがあっても、ないので我慢している	143	4.4%
7	家族から暴力をふるわれたり暴言をはかれたりする	84	2.6%
8	自分の行動や進路を、親などが勝手に決めてしまう。	74	2.3%
9	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	57	1.8%
10	家事や家族の世話などで自分のことができない	29	0.9%
11	食事が不十分で空腹である	19	0.6%
12	アルバイトや仕事が忙しく、ゆっくりできる時間がない	9	0.3%
13	障がいなどがあり、助けが必要な時に助けてもらえない	4	0.1%

家の外での生活で困っていること（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	2,019	62.2%
2	勉強や仕事がうまくいかない	761	23.4%
3	勉強や仕事に興味がない	408	12.6%
4	学校や職場のルールに従わなければならない、負担である	190	5.9%
5	自分の存在が認められておらず、価値がないように感じる	185	5.7%
6	自由に使えるお金がなく、好きなことができない	135	4.2%
7	家や学校、職場以外にほっとできる場所や安心できる場所がない	133	4.1%
8	恋愛相手とうまくいかない	81	2.5%
9	日頃親しく話す相手がおらず孤独である	75	2.3%
10	学校や職場の人と仲が悪い	64	2.0%
11	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	55	1.7%
12	学校の先生や職場の上司に叱られることが多い	31	1.0%

※ 市立高等特別支援学校（再掲）

家で困っていることがあると回答したのは3割以上で、全体と比較してやや高く、おこづかいや生活費が不十分であること、必要なものや欲しいものがあるにもかかわらず我慢しているという回答が上位に位置している。

また、家の外で困っていることがあると回答したのは約3割で、全体と比較すると低かったが、最も多かったのは、自由に使えるお金がなく好きなことができないことで、孤独であることや自分に価値がないように感じるという回答が上位に位置している。

家での生活で困っていること（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	58	69.0%
2	おこづかいや生活費が不十分	11	13.1%
3	必要なもの・ほしいものがあるにもかかわらず我慢している	11	13.1%
4	家族からよく叱られる	10	11.9%
5	家族の仲が悪い	6	7.1%
6	家族から暴力をふるわれたり暴言をはかれたりする	5	6.0%
7	家事や家族の世話などで自分のことができない	3	3.6%
8	塾や習い事が忙しい	3	3.6%
9	食事が不十分で空腹である	2	2.4%
10	障がいなどがあり、助けが必要な時に助けしてもらえない	2	2.4%
11	アルバイトや仕事が忙しく、ゆっくりできる時間がない	1	1.2%
12	自分の行動や進路を、親などが勝手に決めてしまう。	1	1.2%
13	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	1	1.2%

家の外での生活で困っていること（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	63	75.0%
2	自由に使えるお金がなく、好きなことができない	8	9.5%
3	学校や職場のルールに従わなければならない、負担である	5	6.0%
4	日頃親しく話す相手がおらず孤独である	5	6.0%
5	自分の存在が認められておらず、価値がないように感じる	5	6.0%
6	家や学校、職場以外にほっとできる場所や安心できる場所がない	4	4.8%
7	恋愛相手とうまくいかない	4	4.8%
8	勉強や仕事がうまくいかない	3	3.6%
9	勉強や仕事に興味がない	2	2.4%
10	学校や職場の人と仲が悪い	1	1.2%
11	学校の先生や職場の上司に叱られることが多い	1	1.2%
12	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

イ 自分の気持ちを伝えるときに困っていること、困っているときの相談先

約4割が困っていることがあると回答しており、自分の気持ちを上手に話せないことや他人に伝える自信がないことなど、自分自身に関することが上位であったが、誰に伝えたらよいかわからないことや話をしても聞いてくれないという回答も一定数あった。

相談先については、友人が5割以上で最も多く、父母などの家族が続き、先生や職場の上司は1割以下だった。

また、困っていても誰にも相談しないという回答も1割以下だが一定数あった。

気持ちを伝えるときに困っていること（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	2,049	63.1%
2	自分の気持ちをうまく言葉にすることができない	776	23.9%
3	自分の気持ちを他の人に伝える自信がない	347	10.7%
4	自分の気持ちをだれに伝えたらよいかわからない	124	3.8%
5	自分の気持ちを話しても聞いてもらえない	69	2.1%
6	自分の気持ちを理解し、かわりに伝えてくれたり助けてくれたりする人がい	45	1.4%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	30	0.9%

困っているときの相談先（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	普段の生活で会っている友人	1,661	51.2%
2	母	1,486	45.8%
3	特に困っていない	850	26.2%
4	父	702	21.6%
5	兄弟姉妹	482	14.8%
6	学校の先生又は職場の上司	298	9.2%
7	困っていてもだれにも相談しない（→問6もご回答ください）	269	8.3%
8	インターネット上で交流のある友人	231	7.1%
9	祖父母	156	4.8%
10	恋人	74	2.3%
11	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー	61	1.9%
12	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	46	1.4%
13	生活している施設の職員	24	0.7%

※ 市立高等特別支援学校（再掲）

5割以上が困っていることがあると回答しており、全体と比較するとかなり高く、自分の気持ちを上手に話せないことが突出して多かった。

相談先については、全体と同様に父母や友人という回答が多かったが、先生や職場の上司も約3割でかなり高くなっている。

また、困っていても誰にも相談しないという回答は1割以下で、全体とほぼ同様の傾向だった。

気持ちを伝えるときに困っていること（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	41	48.8%
2	自分の気持ちをうまく言葉にすることができない	33	39.3%
3	自分の気持ちを他の人に伝える自信がない	5	6.0%
4	自分の気持ちを話しても聞いてもらえない	3	3.6%
5	自分の気持ちをだれに伝えたらよいかわからない	2	2.4%
6	自分の気持ちを理解し、かわりに伝えてくれたり助けてくれたりする人がい	0	0.0%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

困っているときの相談先（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	母	36	42.9%
2	普段の生活で会っている友人	32	38.1%
3	学校の先生又は職場の上司	25	29.8%
4	父	23	27.4%
5	特に困っていない	22	26.2%
6	祖父母	8	9.5%
7	恋人	7	8.3%
8	兄弟姉妹	7	8.3%
9	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー	6	7.1%
10	困っていてもだれにも相談しない（→問5もご回答ください）	4	4.8%
11	生活している施設の職員	3	3.6%
12	インターネット上で交流のある友人	2	2.4%
13	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	1	1.2%

ウ 困っていても誰にも相談しない理由、知っている相談先

相談しない理由としては、3割以上が信頼できる相談相手がいないと回答しており、自分で解決したい、相談しても無駄だと思うという回答が上位に位置している。

また、知っている相談先については、約9割がスクールカウンセラー、6割以上が児童相談所と回答したほか、8割以上が複数の相談先を回答している。

誰にも相談しない理由（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	信頼できる相談相手がいらないから	87	32.3%
2	自分で解決をしたいから	66	24.5%
3	相談しても無駄だと思うから	53	19.7%
4	相手に悪いから	27	10.0%
5	自分の悩みを話すことがはずかしいから	24	8.9%
6	前に相談をしたことがあるが、解決しなかったから	23	8.6%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	12	4.5%
8	相談できる場所を知らないから	4	1.5%
9	相談する時間がないから	3	1.1%
10	障がい等によって、自分で話をすることができないから	2	0.7%

知っている相談先（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	スクールカウンセラー	2,913	89.8%
2	児童相談所	2,102	64.8%
3	千葉いのちの電話	1,474	45.4%
4	子どもの人権110番	1,264	39.0%
5	青少年サポートセンター	1,058	32.6%
6	千葉市教育相談ダイヤル24（24時間相談ダイヤル）	896	27.6%
7	SNS等インターネットによる相談	857	26.4%
8	チャイルドライン	753	23.2%
9	こころの健康センター	722	22.3%
10	千葉市養護教育センター	686	21.1%
11	よりそいホットライン	586	18.1%
12	Link（子ども・若者総合相談センター）	360	11.1%
13	子どもと親のサポートセンター	253	7.8%
14	ライトポート（千葉市教育センター）	232	7.2%
15	どこでもこどもカフェのおとな	192	5.9%
16	ちば地域若者サポートステーション（ちばサポステ）	131	4.0%
17	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	52	1.6%

※ 市立高等特別支援学校（再掲）

相談しない理由としては、自分で解決したい、相談できる場所を知らない、以前相談したが解決しなかった、相手に悪いという回答があったが、市立養護学校や第二養護学校で最も多かった、障害等によって自分で話をする事ができないからという回答はなかった。

誰にも相談しない理由（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分で解決をしたいから	1	25.0%
2	相談できる場所を知らないから	1	25.0%
3	前に相談をしたことがあるが、解決しなかったから	1	25.0%
4	相手に悪いから	1	25.0%
5	信頼できる相談相手がいないから	0	0.0%
6	自分の悩みを話すことがはずかしいから	0	0.0%
7	相談する時間がないから	0	0.0%
8	相談しても無駄だと思うから	0	0.0%
9	障がい等によって、自分で話をする事ができないから	0	0.0%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

知っている相談先（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	スクールカウンセラー	65	77.4%
2	児童相談所	39	46.4%
3	千葉市養護教育センター	17	20.2%
4	千葉いのちの電話	17	20.2%
5	千葉市教育相談ダイヤル24（24時間相談ダイヤル）	17	20.2%
6	S N S等インターネットによる相談	14	16.7%
7	青少年サポートセンター	13	15.5%
8	子どもの人権110番	10	11.9%
9	こころの健康センター	5	6.0%
10	Link（子ども・若者総合相談センター）	4	4.8%
11	チャイルドライン	4	4.8%
12	よりそいホットライン	4	4.8%
13	子どもと親のサポートセンター	3	3.6%
14	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	3	3.6%
15	ライトポート（千葉市教育センター）	2	2.4%
16	どこでもこどもカフェのおとな	0	0.0%
17	ちば地域若者サポートステーション（ちばサボステ）	0	0.0%

エ 家族などの親しい人以外に自分の考えを伝えること

内容によっては伝えたいという回答が6割以上あり、常に伝えたいという回答と合わせると8割以上が肯定的であったが、伝えたいと思わないという回答も約1割あり、その理由としては、自信がないことが約7割で最も多く、そのとおりにならないからという回答も3割あった。

親しい人以外に考えを伝えること（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	話し合いの内容によっては自分の考えを言いたいと思う	2,095	64.6%
2	いつも自分の考えを言いたいと思う	688	21.2%
3	自分の考えを言いたいとは思わない（→問9もご回答ください）	293	9.0%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	25	0.8%

伝えたいと思わない理由（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分の考えを話す自信がないから	189	66.8%
2	自分の考えがまとまらないから	92	32.5%
3	自分の考えを話してもそのとおりにならないから	85	30.0%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	40	14.1%
5	障がい等によって、自分で話をする事ができないから	11	3.9%

※ 市立高等特別支援学校（再掲）

全体と比較すると、内容によって伝えたいという回答の割合がやや高く、反対に、常に伝えたいという回答の割合は低くなっており、伝えたいと思わないという回答はほぼ同程度で、その理由としては、自信がないことが突出して多かった。

親しい人以外に考えを伝えること（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	話し合いの内容によっては自分の考えを言いたいと思う	56	72.7%
2	いつも自分の考えを言いたいと思う	13	16.9%
3	自分の考えを言いたいとは思わない（→問9もご回答ください）	8	10.4%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

伝えたいと思わない理由（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	自分の考えを話す自信がないから	6	100.0%
2	自分の考えがまとまらないから	1	16.7%
3	自分の考えを話してもそのとおりにならないから	0	0.0%
4	障がい等によって、自分で話をする事ができないから	0	0.0%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

オ 学校のルールづくりやまちづくり、政治に子ども・若者が関わること

子ども・若者に関することでも積極的に関わるべきという回答が約5割で最も多く、子ども・若者自身のことには関わるべきという回答と合わせると8割以上が肯定的であるが、関わっても変わりはないから積極的に関わる必要はないという回答も約1割あった。

※ 市立高等特別支援学校（再掲）

全体と比較すると、子ども・若者に関することでも積極的に関わるべきという回答の割合が約4割で低く、反対に、関わっても変わりはないから積極的に関わる必要はないという回答の割合は約2割で高くなっている。

学校のルールづくり等に子ども・若者が関わること（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども・若者自身のことでもなくとも、積極的にかかわるべきである	1,596	49.2%
2	基本的には若者より上の世代が決めることではあるが、子ども・若者自身のことにはかかわった方がよい	1,123	34.6%
4	かかわっても変わりはないから、積極的にかかわる必要はない	278	8.6%
3	子ども・若者はまだ積極的にかかわらなくてもよい	186	5.7%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	63	1.9%

学校のルールづくり等に子ども・若者が関わること（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども・若者自身のことでもなくとも、積極的にかかわるべきである	32	38.1%
2	基本的には若者より上の世代が決めることではあるが、子ども・若者自身のことにはかかわった方がよい	30	35.7%
3	かかわっても変わりはないから、積極的にかかわる必要はない	14	16.7%
4	子ども・若者はまだ積極的にかかわらなくてもよい	7	8.3%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	1	1.2%

カ 住んでいる地域のこと、自分の将来、理想とする千葉市の将来像

この地域が好きであるという回答は約5割で、大人はこどもの話をよく聞いてくれるという回答は約1割となっており、小学生と比較すると否定的な回答が多かった。

自分の将来については、8割弱が多少なりとも希望を持っているのに対し、2割以上が希望がないと回答している。

理想とする千葉市の将来像については、安全で平和なまちが約8割で最も多く、生活費に困ることなく暮らせるまち、性別や年齢など様々な違いのある人みんなが活躍するまち、自由に過ごせる居場所があるまちについては5割以上となっている。

住んでいる地域のこと（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	この地域がすきだ	1,721	53.0%
2	この地域は安全だ	1,432	44.1%
3	地域の大人が、あいさつをしてくれる	1,052	32.4%
4	この地域の一員だと感じる	761	23.4%
5	将来もこの地域に住みたい	544	16.8%
6	大人は、こどもの話をよくきいてくれる	358	11.0%

自分の将来（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	どちらかといえば希望がある	1,509	46.8%
2	希望がある	937	29.1%
3	どちらかといえば希望がない	535	16.6%
4	希望がない	240	7.5%

理想とする千葉市の将来像（中学生～18歳程度）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	争いごとや犯罪のない安全で平和なまち	2,550	79.7%
2	生活費に困ることなく安心して暮らせるまち	1,833	57.3%
3	性別、年齢、国籍、障がいの有無、学歴、価値観、社会的な属性など、様々な違いのある人がそれぞれの能力を発揮して活躍できるまち	1,782	55.7%
4	子ども・若者が自由に過ごすことのできる公共施設や居場所があるまち	1,747	54.6%
5	子ども・若者の意見を取り入れて「まちづくり」を行うまち	1,463	45.7%
6	子どもを産みたい、育てたいと思う人が十分な支援をうけられるまち	1,420	44.4%
7	困っているときや悩んでいるときに相談のってくれる人がいるまち	1,366	42.7%
8	大人になった時に、自分も活躍することができるまち	1,234	38.6%
9	自分のやりたいことを手伝ってくれる人がいるまち	1,167	36.5%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	76	2.4%

※ 市立高等特別支援学校（再掲）

全体と比較すると、この地域が好きであるという回答は5割以上でやや高くなっているが、この地域の一員だと感じるという回答は低くなっている。

自分の将来については、希望があるという回答が全体よりもやや高くなっている。

理想とする千葉市の将来像については、全体とほぼ同じ傾向であるが、全体的に回答割合が低くなっている。

住んでいる地域のこと（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	この地域がすきだ	48	57.1%
2	この地域は安全だ	32	38.1%
3	将来もこの地域に住みたい	16	19.0%
4	地域の大人が、あいさつしてくれる	12	14.3%
5	大人は、子どもの話をよくきいてくれる	12	14.3%
6	この地域の一員だと感じる	11	13.1%

自分の将来（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	どちらかといえば希望がある	39	47.0%
2	希望がある	28	33.7%
3	どちらかといえば希望がない	9	10.8%
4	希望がない	7	8.4%

理想とする千葉市の将来像（高等特別支援学校）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	争いごとや犯罪のない安全で平和なまち	59	73.8%
2	生活費に困ることなく安心して暮らせるまち	45	56.3%
3	性別、年齢、国籍、障がいの有無、学歴、価値観、社会的な属性など、様々な違いのある人がそれぞれの能力を発揮して活躍できるまち	32	40.0%
4	子ども・若者が自由に過ごすことのできる公共施設や居場所があるまち	28	35.0%
5	困っているときや悩んでいるときに相談のってくれる人がいるまち	27	33.8%
6	大人になった時に、自分も活躍することができるまち	26	32.5%
7	子ども・若者の意見を取り入れて「まちづくり」を行うまち	21	26.3%
8	子どもを産みたい、育てたいと思う人が十分な支援をうけられるまち	18	22.5%
9	自分のやりたいことを手伝ってくれる人がいるまち	16	20.0%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

(3) こどもを養育していない19～29歳

ア こども・若者の権利に関すること

大人と同様に尊重されるべきという回答が5割で最も多く、発達段階に応じて制限が必要という回答はやや少なかった。

また、こども・若者に権利があることを初めて知ったという回答も若干あった。

こども・若者の権利に関すること（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども・若者の権利は生まれながらに備わっているものであり、大人と同じように尊重されるべきである。	35	50.0%
2	子ども・若者の権利は大切であるが、発達段階に応じて、ある程度の制限が必要である。	33	47.1%
3	子ども・若者に権利があることを初めて知った。	2	2.9%
4	子ども・若者は保護者などに養育されているので、必要以上の権利を認めなくてもよい。	0	0.0%
5	その他（他に何かあれば必ず書いてください。）	0	0.0%

イ 困っていること、困っているときの相談先

約8割が困っていることがあると回答しており、最も多かったのは人間関係が悪いということで、次いで勉強や仕事、家事がうまくいかないことや子育ての不安などが上位に位置している。

また、相談先については、友人が6割以上で最も多く、誰にも相談しないという回答は1割以下だった。

困っていること（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	特になし	15	21.4%
2	家庭や学校、職場などでの人間関係が悪い	15	21.4%
3	勉強や仕事、家事がうまくいかない	11	15.7%
4	子育てに不安がある	10	14.3%
5	恋愛相手と出会う機会がない	9	12.9%
6	友人がいない、または少ない	6	8.6%
7	その他（他に何かあれば必ず書いてください。）	3	4.3%
8	いい仕事が見つからない	1	1.4%
9	信頼できる相談相手がない	0	0.0%

困っているときの相談先（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	普段の生活で会っている友人	44	62.9%
2	父母	37	52.9%
3	恋人・結婚相手	25	35.7%
4	兄弟姉妹	19	27.1%
5	学校の先生又は職場の上司	12	17.1%
6	インターネット上で交流のある友人	5	7.1%
7	困っていてもだれにも相談しない（→問6もご回答ください）	5	7.1%
8	その他（他に何かあれば必ず書いてください。）	4	5.7%
9	祖父母	2	2.9%
10	特に困っていない	1	1.4%

ウ 困っていても誰にも相談しない理由、知っている相談先

相談しない理由としては、全員が相談しても無駄だと思っていると回答しているほか、信頼できる相談相手がない、自分で解決をしたいという回答が多かった。

また、知っている相談先としては、スクールカウンセラーと児童相談所が約9割となっているほか、9割以上が複数の相談先を回答している。

誰にも相談しない理由（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	相談しても無駄だと思うから	5	100.0%
2	信頼できる相談相手がないから	4	80.0%
3	自分で解決をしたいから	3	60.0%
4	自分の悩みを話すことがはずかしいから	1	20.0%
5	前に相談をしたことがあるが、解決しなかったから	1	20.0%
6	相手に悪いから	1	20.0%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	1	20.0%
8	相談する時間がないから	0	0.0%
9	相談機関を知らないから	0	0.0%
10	障害等によって、伝えることが難しいから	0	0.0%

知っている相談先（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	スクールカウンセラー	63	90.0%
2	児童相談所	62	88.6%
3	千葉いのちの電話	38	54.3%
4	こころの健康センター	35	50.0%
5	青少年サポートセンター	30	42.9%
6	子どもの人権110番	29	41.4%
7	チャイルドライン	20	28.6%
8	ライトポート（千葉市教育センター）	18	25.7%
9	千葉市養護教育センター	17	24.3%
10	Link（子ども・若者総合相談センター）	16	22.9%
11	SNS等インターネットによる相談	15	21.4%
12	よりそいホットライン	14	20.0%
13	千葉市教育相談ダイヤル24（24時間相談ダイヤル）	12	17.1%
14	子どもと親のサポートセンター	9	12.9%
15	ちば地域若者サポートステーション（ちばサポステ）	4	5.7%
16	どこでもこどもカフェ	1	1.4%
17	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	0	0.0%

エ 学校や社会のルールづくり、まちづくりにこども・若者が関わること

こどもについては、こども自身のことには積極的に関わるべきという回答が5割以上で最も多く、こどもに関することでも積極的に関わるべきという回答と合わせるとほとんどが肯定的となっている。

また、若者については、全体的に肯定的な傾向は同様だが、若者自身のことでも積極的に関わるべきという回答が7割で最も多く、こどもと比較するとかなり高くなっている。

学校のルールづくり等にこどもが関わること（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	基本的にはおとなが決めることではあるが、子ども自身のことにはかかわった方がよい	36	51.4%
2	子ども自身のことでも、積極的にかかわるべきである	31	44.3%
3	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	2	2.9%
4	かかわっても変わりはないから、積極的にかかわる必要はない	1	1.4%
5	子どもだから積極的にかかわらなくてもよい	0	0.0%

社会のルールづくり等に若者が関わること（こどもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	若者自身のことでも、積極的にかかわるべきである	49	70.0%
2	若者自身のことにはかかわった方がよい	17	24.3%
3	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	2	2.9%
4	若者は人生経験が不十分だから、積極的にかかわらなくてもよい	1	1.4%
5	かかわっても変わりはないから、積極的にかかわる必要はない	1	1.4%

オ 自分の将来

どちらかといえば希望があるという回答が最も多かったが、全体的には肯定的な回答が約6割、否定的な回答が約4割だった。

自分の将来（子どもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	どちらかといえば希望がある	27	38.6%
2	どちらかといえば希望がない	20	28.6%
3	希望がある	14	20.0%
4	希望がない	9	12.9%

カ 若者の自立のために市が取り組むべきこと

政治やまちづくりに若者の意見を反映させる取組みが5割以上で最も多く、自立が困難な若者への支援や子育てのため生活が立ち行かない若者への支援などが上位に位置している。

若者の自立のために市が取り組むべきこと（子どもを養育していない19～29歳）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	政治やまちづくりに若者の意見を反映させるための取組み	38	54.3%
2	保護者等がないまま成長し、自立した生活を送ることが困難な若者に対する支援	34	48.6%
3	若くして子育てをはじめたため、生活が立ち行かない若者に対する支援	34	48.6%
4	十分な基礎学力を身に付けられなかった若者に対する学び直しの機会の提供	32	45.7%
5	社会から孤立している若者のための居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）の提供	32	45.7%
6	非正規雇用など、収入が安定しない若者を対象とした就労支援や生活支援	28	40.0%
7	ひきこもり等で社会との関わりが少ない若者やその家族が利用できる相談機関の運営	28	40.0%
8	契約トラブルや悪質商法に巻き込まれた若者のための相談機関の運営	25	35.7%
9	結婚したいと思う若者のための出会いの場づくり	19	27.1%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	3	4.3%

(4) こどもを養育していない30歳以上及びこどもの養育者

ア こども・若者の権利に関すること

ほとんどが肯定的な回答だったが、こども・若者に権利があることを初めて知ったという回答も若干あったほか、こどもを養育していない方では大人と同様に尊重されるべきという回答が5割以上で最も多かったのに対し、こどもの養育者では発達段階に応じて制限が必要という回答が約6割で最も多かった。

また、いずれも、権利が十分に守られていないという回答が5割前後で最も多く、十分守られているという回答が2割前後、権利の意識が高くなりすぎて成長によくないという回答が1割以上あった。

こども・若者の権利に関すること（こどもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども・若者の権利は生まれながらに備わっているものであり、大人と同じように尊重されるべきである	82	52.6%
2	子ども・若者の権利は大切であるが、発達段階に応じて、ある程度の制限が必要である	68	43.6%
3	子ども・若者は保護者などに養育されているので、必要以上の権利を認めなくてもよい	3	1.9%
4	子ども・若者に権利があることを初めて知った	2	1.3%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	1	0.6%

社会の傾向（こどもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	「子ども・若者の権利」は十分に守られていないと思う	82	52.6%
2	現在「子ども・若者の権利」は十分守られており、現状のままで問題はない	29	18.6%
3	「子ども・若者の権利」に対する意識が高くなりすぎており、むしろ子ども・若者の成長によくない	23	14.7%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	16	10.3%
5	わからない	6	3.8%

こども・若者の権利に関すること（こどもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども・若者の権利は大切であるが、発達段階に応じて、ある程度の制限が必要である	7,400	57.0%
2	子ども・若者の権利は生まれながらに備わっているものであり、大人と同じように尊重されるべきである	5,187	40.0%
3	子ども・若者に権利があることを初めて知った	267	2.1%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	69	0.5%
5	子ども・若者は保護者などに養育されているので、必要以上の権利を認めなくてもよい	58	0.4%

社会の傾向（こどもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	「子ども・若者の権利」は十分に守られていないと思う	5,750	44.3%
2	わからない	2,773	21.4%
3	現在「子ども・若者の権利」は十分守られており、現状のままで問題はない	2,726	21.0%
4	「子ども・若者の権利」に対する意識が高くなりすぎており、むしろ子ども・若者の成長によくない	1,317	10.1%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	420	3.2%

イ 学校や社会のルールづくり、まちづくりに子ども・若者が関わること

子どもについては、養育していない方では約9割、養育者ではほとんどが肯定的な回答だったが、子どもだから積極的に関わらなくてもよいという回答も若干あった。

また、若者については、全体的に肯定的な傾向は子どもと同様だが、若者自身のことでなくても積極的に関わるべきという回答が7割以上で最も多く、子どもと比較するとかなり高くなっているほか、否定的な回答も一定数あった。

学校のルールづくり等に子どもが関わること（子どもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	基本的にはおとなが決めることではあるが、子ども自身のことにはかかった方がよい	72	46.2%
2	子ども自身のことでなくても、積極的ににかかわるべきである	65	41.7%
3	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	13	8.3%
4	かかわっても変わりはないから、積極的ににかかわる必要はない	4	2.6%
5	子どもだから積極的ににかかわらなくてもよい	2	1.3%

社会のルールづくり等に若者が関わること（子どもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	若者自身のことでなくても、積極的ににかかわるべきである	111	71.2%
2	若者自身のことにはかかった方がよい	31	19.9%
3	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	7	4.5%
4	かかわっても変わりはないから、積極的ににかかわる必要はない	4	2.6%
5	若者は人生経験が不十分だから積極的ににかかわらなくてもよい	3	1.9%

学校のルールづくり等に子どもが関わること（子どもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども自身のことでなくても、積極的ににかかわるべきである	6,488	50.0%
2	基本的にはおとなが決めることではあるが、子ども自身のことにはかかった方がよい	6,040	46.5%
3	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	246	1.9%
4	かかわっても変わりはないから、積極的ににかかわる必要はない	111	0.9%
5	子どもだから積極的ににかかわらなくてもよい	99	0.8%

社会のルールづくり等に若者が関わること（子どもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	若者自身のことでなくても、積極的ににかかわるべきである	9,490	73.2%
2	若者自身のことにはかかった方がよい	2,887	22.3%
3	若者は人生経験が不十分だから積極的ににかかわらなくてもよい	225	1.7%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	202	1.6%
5	かかわっても変わりはないから、積極的ににかかわる必要はない	169	1.3%

ウ 地域のこども・若者との関わり

養育していない方では挨拶をするという回答が5割以上で最も多かったが、雑談をするという回答は約2割、何もしていないという回答は約4割あった。

一方、養育者でも挨拶をするという回答が最も多かったが約8割と高く、雑談をするという回答も約3割で、何もしていないという回答は約1割だった。

地域のこども・若者との関わり（こどもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	あいさつをする	82	52.6%
2	どれもしていない	59	37.8%
3	子ども・若者に関するボランティア活動をしている	20	12.8%
4	いつもと違う、悩んでいるような様子が見られた場合は声掛けをする	19	12.2%
5	地域の子どもと雑談をする	17	10.9%
6	地域の若者と雑談をする	10	6.4%

地域のこども・若者との関わり（こどもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	あいさつをする	10,481	80.6%
2	地域の子どもと雑談をする	3,118	24.0%
3	いつもと違う、悩んでいるような様子が見られた場合は声掛けをする	2,161	16.6%
4	どれもしていない	1,679	12.9%
5	子ども・若者に関するボランティア活動をしている	919	7.1%
6	地域の若者と雑談をする	636	4.9%

エ こどもの健やかな成長や若者の自立のために市が取り組むべきこと

こどもの健やかな成長については、いずれも、困難な状況にあるこどもへの支援や声をあげることができないこどもの意見を聞く取組みが上位に位置している一方、社会参画の促進は下位に位置している。

また、若者の自立については、いずれも、自立が困難な若者への支援や学び直しの機会の提供、就労や生活の支援が上位に位置しており、まちづくりに意見を反映させる取組みは5割以下で中位に位置している。

こどもの成長のために市が取り組むべきこと（こどもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援	113	72.4%
2	障害の有無など子どもの特性に応じた支援	101	64.7%
3	声をあげることができない子どもの意見を聞くための取組み	96	61.5%
4	保護者や子どものための相談体制の充実	90	57.7%
5	家庭や学校等で権利の侵害をうけている子どものための救済措置の強化	88	56.4%
6	不登校児童生徒に対する理解促進やフリースクールへの支援	87	55.8%
7	地域住民等による見守り支援の充実	81	51.9%
8	里親制度など養育する大人のいない子どもに対する支援	78	50.0%
9	同じ立場や悩みを持つ人同士をつなげるための取組み	62	39.7%
10	子どもの社会参画の促進	61	39.1%
11	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	12	7.7%

若者の自立のために市が取り組むべきこと（こどもを養育していない30歳以上）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	保護者等がないまま成長し、自立した生活を送ることが困難な若者に対する支援	106	67.9%
2	十分な基礎学力を身に着けられなかった若者に対する学び直しの機会の提供	104	66.7%
3	非正規雇用など、収入が安定しない若者を対象とした就労支援や生活支援	98	62.8%
4	ひきこもり等で社会との関わりの少ない若者やその家族が利用できる相談機関の運営	95	60.9%
5	社会から孤立している若者のための居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）の提供	83	53.2%
6	政治やまちづくりに若者の意見を反映させるための取組み	77	49.4%
7	若くして子育てをはじめたため、生活が立ち行かない若者に対する支援	74	47.4%
8	契約トラブルや悪質商法に巻き込まれた若者のための相談機関の運営	70	44.9%
9	結婚したいと思う若者のための出会いの場づくり	36	23.1%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	7	4.5%

こどもの成長のために市が取り組むべきこと（こどもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	声をあげることができない子どもの意見を聞くための取組み	7,909	62.3%
2	家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援	7,616	60.0%
3	不登校児童生徒に対する理解促進やフリースクールへの支援	6,854	54.0%
4	地域住民等による見守り支援の充実	6,848	54.0%
5	障害の有無など子どもの特性に応じた支援	6,505	51.3%
6	家庭や学校等で権利の侵害をうけている子どものための救済措置の強化	6,176	48.7%
7	保護者や子どものための相談体制の充実	5,478	43.2%
8	里親制度など養育する大人のいない子どもに対する支援	4,572	36.0%
9	同じ立場や悩みを持つ人同士をつなげるための取組み	4,520	35.6%
10	子どもの社会参画の促進	4,037	31.8%
11	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	904	7.1%

若者の自立のために市が取り組むべきこと（こどもを養育している方）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	十分な基礎学力を身に着けられなかった若者に対する学び直しの機会の提供	8,068	63.8%
2	保護者等がないまま成長し、自立した生活を送ることが困難な若者に対する支援	7,487	59.2%
3	非正規雇用など、収入が安定しない若者を対象とした就労支援や生活支援	7,080	56.0%
4	ひきこもり等で社会との関わりの少ない若者やその家族が利用できる相談機関の運営	6,813	53.9%
5	契約トラブルや悪質商法に巻き込まれた若者のための相談機関の運営	6,192	49.0%
6	社会から孤立している若者のための居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）の提供	6,100	48.2%
7	政治やまちづくりに若者の意見を反映させるための取組み	5,468	43.2%
8	若くして子育てをはじめたため、生活が立ち行かない若者に対する支援	4,759	37.6%
9	結婚したいと思う若者のための出会いの場づくり	2,074	16.4%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	512	4.0%

(5) こども・若者に関する施設の職員

ア こども・若者の権利に関すること

大人と同じように尊重されるべきという回答が約7割で最も多く、発達段階に応じた制限が必要という回答も約3割あったほか、権利があることを初めて知ったという回答もわずかながらあった。

所属する施設における権利の保障状況については、肯定的な回答がほとんどだったものの、とても守られているという回答は、生きる権利・育つ権利に関しては5割以上だったのに対し、参加する権利に関しては約4割だったほか、守られていないという回答も若干あった。

また、全体の感じ方として、権利が十分守られているという回答は約4割だったが、十分守られていないという回答も約3割あり、権利の意識が高くなりすぎて成長によくないという回答も約1割あった。

こども・若者の権利に関すること（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	子ども・若者の権利は生まれながらに備わっているものであり、大人と同じように尊重されるべきである	1,370	67.9%
2	子ども・若者の権利は大切であるが、発達段階に応じて、ある程度の制限が必要である	627	31.1%
3	子ども・若者は保護者などに養育されているので、必要以上の権利を認めなくてもよい	8	0.4%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	8	0.4%
5	子ども・若者に権利があることを初めて知った	4	0.2%

生きる権利・育つ権利に関する所属施設の状況（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	とても守られている	1,086	53.8%
2	守られている	909	45.1%
3	守られていない	22	1.1%

参加する権利に関する所属施設の状況（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	守られている	1,113	55.2%
2	とても守られている	868	43.0%
3	守られていない	36	1.8%

こども・若者の権利について感じていること（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	現在「子ども・若者の権利」は十分守られており、現状のままで問題はない	894	44.3%
2	「子ども・若者の権利」は十分に守られていないと思う	643	31.9%
3	「子ども・若者の権利」に対する意識が高くなりすぎており、むしろ子ども・若者の成長によくない	205	10.2%
4	わからない	193	9.6%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	82	4.1%

イ 所属する施設における相談体制及び意見聴取・活用状況

約8割が相談窓口を整備していると回答しているが、相談窓口がなく職員が対応する機会も少ないという回答も若干あった。

また、意見聴取の体制を整備しているのは5割以下だったが、施設運営に意見を活用することに肯定的な回答は9割以上あった一方、意見を活用する必要を感じないという回答も若干あった。

所属施設における相談体制（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	相談窓口等を整備しており、継続的に相談が寄せられる	822	40.8%
2	相談窓口等を整備しているが、相談件数は少ない	730	36.2%
3	相談窓口等を整備していないが、職員が相談に対応する機会が多い	313	15.5%
4	相談窓口等を整備しておらず、職員が相談に対応する機会も少ない	93	4.6%
5	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	59	2.9%

所属施設における意見の活用状況（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	意見聴取の方法は整備していないが、意見があれば積極的に取り入れる	968	48.0%
2	意見聴取の方法を整備しており、施設の運営に活かしている	911	45.2%
3	意見聴取の方法は整備しておらず、意見を取り入れる必要は感じない	78	3.9%
4	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	60	3.0%

ウ 所属する施設における連携先

児童相談所という回答が約8割で最も多く、他の子ども・若者施設が約6割、市役所などの行政機関が約5割と続くが、地域との関わりが深い町内自治会は約3割だった。

所属施設における連携団体等（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	市または県の児童相談所	1,561	77.4%
2	他の子ども・若者に関する施設	1,282	63.6%
3	施設を所管する行政機関（国・県・市）	987	48.9%
4	警察	685	34.0%
5	町内自治会	665	33.0%
6	他の団体と連携する機会はほとんどない	71	3.5%
7	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	48	2.4%

エ こどもの健やかな成長や若者の自立のために市が取り組むべきこと

こどもの健やかな成長のための市の取り組みについては、障害の有無などこどもの特性に応じた支援が6割以上で最も多く、困難な状況にあるこどもへの支援や不登校児童生徒への対応などが上位に位置している一方、社会参画の促進は下位に位置している。

また、若者の自立のための市の取り組みについては、就労や生活の支援が約6割で最も多く、学び直しの機会の提供やひきこもりへの対応などが上位に位置しており、まちづくりに意見を反映させる取り組みは下位に位置している。

こどもの成長のために市が取り組むべきこと（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	障害の有無など子どもの特性に応じた支援	1,300	64.5%
2	家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援	1,231	61.0%
3	不登校児童生徒に対する理解促進やフリースクールへの支援	1,208	59.9%
4	保護者や子どものための相談体制の充実	1,172	58.1%
5	地域住民等による見守り支援の充実	1,114	55.2%
6	声をあげることができない子どもの意見を聞くための取り組み	952	47.2%
7	家庭や学校等で権利の侵害をうけている子どものための救済措置の強化	809	40.1%
8	子どもの社会参画の促進	589	29.2%
9	里親制度など養育する大人のいない子どもに対する支援	582	28.9%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	66	3.3%

若者の自立のために市が取り組むべきこと（施設職員）

No.	選択肢	回答	/回答者数
1	非正規雇用など、収入が安定しない若者を対象とした就労支援や生活支援	1,227	60.8%
2	十分な基礎学力を身に付けられなかった若者に対する学び直しの機会の提供	1,183	58.7%
3	ひきこもり等で社会との関わりの少ない若者やその家族が利用できる相談機関	1,131	56.1%
4	保護者等がないまま成長し、自立した生活を送ることが困難な若者に対する支援	1,093	54.2%
5	社会から孤立している若者のための居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）	1,000	49.6%
6	若くして子育てをはじめ、生活が立ち行かない若者に対する支援	796	39.5%
7	契約トラブルや悪質商法に巻き込まれた若者のための相談機関の運営	736	36.5%
8	政治やまちづくりに若者の意見を反映させるための取り組み	684	33.9%
9	結婚したいと思う若者のための出会いの場づくり	370	18.3%
10	その他（他に何かあればぜひ書いてください。）	40	2.0%

7 まとめ

(1) こども（小学生～18歳程度）

- ・概ね3割のこどもが日常生活において困難を抱えており、虐待やいじめなどの深刻な問題に直面しているこどもも一定程度いる。
- ・困っていても誰にも相談しない理由として、自分で解決したいという前向きな姿勢を示す回答が一定数ある一方、相談しても無駄だと思う、信頼できる相談相手がないという回答も比較的多く、社会や周囲の大人などに対する信頼感をあまり持てない状況が窺える。
- ・まちづくりなどにこどもが関わることについては概ね肯定的であるが、関わっても変わりはないなどの理由で否定的な考えも一定程度ある。
- ・障害のあるこどもの多くは、自分の気持ちを伝えることに大きな困難を感じているほか、まちづくりへの参画についても否定的な傾向が強い。

(2) 若者（こどもを養育していない19～29歳）

- ・こども・若者の権利については概ね肯定的だが、大人と同様に尊重されるべきという考えと、発達段階に応じて制限が必要という考えは、ほぼ同程度である。
- ・日常生活において困難を抱えている割合は概ね8割で、こどもと比較するとかなり高くなっており、誰にも相談しない理由として、相談しても無駄だと思う、信頼できる相談相手がないことなどを挙げる割合も高くなっている。
- ・まちづくりなどへの関わりについては、積極的に関わるべきと考える傾向がこどもから若者になるに従い強くなる。
- ・自分の将来について、半数近くがあまり希望を抱いていない。

(3) 大人・養育者（こどもを養育していない30歳以上及びこどもの養育者）

- ・こども・若者の権利について、大人と同様に尊重されるべきか、発達段階に応じて制限が必要か、こどもの養育の有無で考えに差異が出る傾向がある。
- ・こども・若者の権利が十分に守られていないという認識が概ね半数である一方、権利の意識が高くなりすぎる事への懸念も一定程度あることが窺える。
- ・まちづくりなどへのこども・若者の関わりについては、積極的に関わるべきと考える傾向がこどもから若者になるに従い強くなる。
- ・地域のこども・若者との関わりについては、こどもの養育の有無でかなりの差異がある。

(4) こども・若者に関する施設の職員

- ・所属する施設において、こども・若者の権利が十分に守られていない状況がわずかながら認められるほか、特に意見聴取の体制整備に課題が窺える。